



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.15 2006.12



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

目次

	ページ
● イベント報告	
大学院社会理工学研究科創設 10 周年記念事業	1
日本・台湾の再生エネルギー技術検討会議	2
SCM-LSC セミナー	3
ISCM 2006	3
産学連携とイノベーションの課題	3
MOT セミナー: How to Capture Success Under Economic & Political Crisis	3
● 最近の動き	4
● イベント予定	4
● 編集後記	4

イベント報告

大学院社会理工学研究科創設 10 周年記念事業

本年、東京工業大学大学院社会理工学研究科が創設 10 周年を迎えました。

これを記念して創設 10 周年記念式典を開催した他、同研究科内 4 専攻（経営工学専攻、人間行動システム専攻、価値システム専攻、社会工学専攻）それぞれ主宰のシンポジウムが 10 月より連続的に行われました。

本 COE の中核組織である経営工学専攻は、昨年度設立 60 周年を迎えたことと併せて、「経営工学 60 年 - 足跡・理魂文才の 10 年・次の時代への期待」とのテーマでのシンポジウムを行いました。



大学院社会理工学研究科創設 10 周年記念式典 (2006 年 11 月 29 日 東工大 西 9 号館)



10 周年記念式典は、産官学各界の来賓による祝辞、研究科長による 10 年間の足跡評価の報告および同研究科の卒業生・在校生によるパネルディスカッション「研究科の思い出と期待」の 3 セッションにより行われました。

来賓による祝辞では、EU 大使館デュ・ポエット氏をはじめ世界の産官学関係者からお言葉をいただき、世界最高水準の理工系総合大学を目指す東工大がその「総合」であることを最も強く託した研究科として、社会理工学研究科に対する産官学各界からの期待の大きさを測り知ることができました。



SIMOT 第 2 回国際シンポジウムの基調講演者で、本センターの評価委員を務めるグローバル経営大学院大学名誉学長・教授のジェームズ・C・アベグレン氏は、来賓のおひとりとしてのご祝辞と共に、社会理工学研究科の発展に SIMOT の研究の深化が貢献することを確信され、その発展が期待される、とのご意見を述べられました。

また、パネルディスカッションには、現在ビジネス界の第一線で活躍されている女性卒業生として、SIMOT 特任教授の保々雅世氏がパネリストのひとりとして参加しました。ビジネス界で活躍しつつ、SIMOT 教育をはじめとする学術界にも携わるその経験は、社会理工学研究科の目的の実現例として注目を集めました。



経営工学 60 年記念シンポジウム (2006 年 11 月 9 日 東工大 百年記念館)

本 COE の中核組織である東工大経営工学専攻が設立 60 周年を迎えたにあたり、記念シンポジウムおよび記念パーティーが開催されました。

シンポジウムでは、「経営工学 60 年 - 足跡・理魂文才の 10 年・次の時代への期待」とのテーマの下、経営工学専攻の教員・学生および卒業生を交え、経営工学専攻の歴史をふりかえり、その現状をご報告するとともに、次の時代の経営工学の役割と期待について意見交換を行いました。新規の取組みとして SIMOT が紹介され、その教育研究の役割に対しご参加の皆様からも高い期待が寄せられました。

シンポジウムは二部構成になっており、第一部においては、戦後の復興期からの経営工学専攻の成り立ち(関口 東工大副学長)、経営 50 年間の歴史(古川 東工大名誉教授)および現在の体制と取り組みについて(飯島 前経営工学専攻長)報告しました。第二部では産学の各分野で働く本専攻卒業生より、学外の視点に立った次の時代の経営工学への期待について、また、現役博士課程学生からは学生の視点での期待・希望について、それぞれの意見をもとに活発な議論を行いました。

第一部

経営工学 60 年を祝して

関口光晴 東工大理事・副学長

経営工学の歴史を振り返る

古川浩一 元経営工学専攻主任、東工大名誉教授

経営工学専攻の現在

飯島淳一 前経営工学専攻長、SIMOT 事業推進担当

第二部 パネルディスカッション「次の時代の経営工学への期待」



峯尾啓司 株式会社ブリヂストン生産物流管理本部長

秋元一彦 新日鉄ソリューションズ株式会社取締役

鈴木久敏 筑波大学教授

曹徳弼 慶応義塾大学教授、SIMOT 事業推進担当

荻久保瑞穂 経営工学専攻博士課程、SIMOT スーパードクター*

伊藤謙治 経営工学専攻長、SIMOT 事業推進担当(パネルコ-ディネ-ター)

*2 年間で博士課程を加速修了するコースに選抜された者

日本・台湾の再生エネルギー技術検討会議 (2006 年 12 月 9 日 東工大 西 9 号館)

台湾工業技術研究院 (ITRI) の林師模教授および尤如瑾研究員が、台湾の再生エネルギー政策に関するプロジェクトの一環として東工大を訪れ、日本および台湾の再生エネルギー技術の発展ビジョンについて議論を行いました。SIMOT リサーチセンター長 渡辺千仞教授が対応し、異なるインスティテューションにおいて、エネルギー技術政策の経済に与える影響について意見交換を行い、今後この面で研究協力を発展させることとなりました。



SCM ロジスティクス・スコアカード・セミナー (2006年11月16日 東工大)



SIMOT リサーチセンター副センター長の圓川隆夫教授が中心となり開発・運用している SCM ロジスティクススコアカード(LSC)に関する会合ならびにセミナーが開催されました。

フィンランドより Heikki Kekalainen 氏 (e-Business Logistics)、中国より孫林岩教授 (西安交通大学)、蘇強助教授 (上海交通大学)、鄭力教授 (清華大学)、タイより Sermkiat Jomjunyong 助教授 (チェンマイ大学)、米国より Shane J. Schvaneveldt 教授 (ウェーバー州立大学)ら を招いた会合では、

各国の LSC に関する研究実績について、国別のインスティテューションの違いを踏まえた積極的な議論がなされました。また、日本ロジスティクスシステム協会 (JILS)、日本貿易振興機構 (JETRO) をはじめとする、これまで LSC の調査にご協力頂いた各企業の実務家の方々を交えたセミナーでは、各国の LSC 最新研究動向が報告され、多岐にわたり有益かつ貴重な意見交換がなされました。

International Workshop on Institutional View of SCM (ISCM2006) (2006年11月16-18日 東工大)

SIMOT および日本経営工学会(JIMA)リバーズロジスティクス研究部会の協賛で、東工大にて “Institutional Supply Chain Management” をテーマとしたシンポジウムを開催いたしました。

本シンポジウムには、日米欧亜 11ヶ国の本分野での最先端研究者が集い、60名の参加を得て、38講演が行われました。SIMOT からは、事業推進担当者 曹徳弼教授の他、鈴木定省助手、汪建氏 (元 SIMOT ポスドク、現東芝)、Korrakot Yaibuathet (SIMOT RA) が研究発表を行いました。

各国のバラエティに富んだ視点から同テーマに対する考察や示唆が提示され、SIMOT の研究の深化に大いに貢献しました。

プログラム等の詳細については、<http://www.ie.me.titech.ac.jp/ISCM2006/index.html> をご参照下さい。



産学連携とイノベーションの課題 (2006年11月27日 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会国際問題分科会 11月例会では、立正大学経営学部教授 依田直也氏に「産学連携とイノベーションの課題」とのテーマでご講演いただきました。

「イノベーションのきっかけ」は「対話」と「インスピレーション」によって突然起こることを重視し、産学連携における大学と産業の研究の中間領域に、独立の管理組織「公共空間」(Public Space) の場を創設することを提言。その下での柔軟な「対話の経営」を重視する「解釈的思考」によるマネジメントが重要であることを、米国への訪問調査結果やご自身の民間企業研究所での経験を交えて解説されました。これらは日本企業のインスティテューションとイノベーションの共進化研究への示唆に富んでおり、イノベーションの創出、産官学の連携等、色々な側面についての活発な議論が展開されました。



How to Capture Success Under Economic & Political Crisis: A Real Harvard Case Study (2006年12月8日 東工大)

SIMOT リサーチセンター副センター長 圓川隆夫教授が研究科長を務めるイノベーションマネジメント研究科が主催者となり、トルコ共和国 Dogus Group of Companies 社の CEO、Ferit Sahenk 氏による MOT セミナーを開催しました。Sahenk 氏は、37歳の若さで、トルコ最大級の銀行、建設、メディア、娯楽産業等の多くの企業を傘下におさめるコングロマリットである同社の CEO に登り詰めた人物であり、彼の採用した事業戦略はハーバードビジネススクールのビジネスケースとなっています。今回のセミナーは、ご本人がそのケースについて語るという他に類を見ないものでした。トルコという独特のインスティテューションにおける成功体験を聞くことができ、SIMOT の研究分野の視点からも大変貴重な示唆を与えられました。



■ 最近の動き ■

● 海外出張

渡辺 12月22日～1月3日 オーストリア ウィーン 国際応用システム分析研究所 (IIASA)

田中 11月1日～4日 中国 国家知識参権庁、清華大学ほか

11月4日～8日 ベトナム 国家知的財産権庁、ハノイ工科大学、ベトナム科学技術アカデミー自然生物化学研究所ほか (各国知的財産制度が技術移転にもたらす影響に関する調査)

● 書 評

SIMOT リサーチセンター運営委員 菊池隆特任教授の著書「**ロジカル・ブランディング**」(日本評論社)が、11月12日付日経新聞<今を読み解く>欄で採り上げられ、「…「ブランド経営」論として徹底整理…特筆大書されるのがコミュニケーション戦略に終始してはならず、ビジネス戦略の実態が先行しなければならないという点…イノベーションを生み出す企業組織が論じられている。」と好評を得ました。

また、同特任教授が翻訳の一部を担った「**インテルの戦略**」(Stanford 大学教授、Robert Burgelman 著、ダイヤモンド社)が同じく12月10日付日経新聞の書評欄で「同社を12年間にわたってフィールド調査してきた研究者に手になる書だけに一言一言に重みがある。」と評されました。同教授は、来る2月のシンポジウムの基調講演者です。

■ イベント予定 ■

研究・技術計画学会 国際問題分科会 12月例会

日時 12月20日(水) 18:00～20:00

場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室

テーマ 日本のインスティテューションとM&A

インスティテューショナル技術経営学への示唆

講師 山本 礼二郎 氏 (GCA 株式会社 取締役パートナー)

第3回年次国際シンポジウム

日時 2月27日(火)、28日(水)

場所 東京工業大学 大岡山西9号館 デジタル多目的ホール

テーマ イノベーションとインスティテューションとの共進化ダイナミズムの解明

主な基調講演予定者

- Dr. Norman Neureiter (Director, Center for Science, Technology and Security Policy, AAAS)
- Professor Robert Burgelman (Graduate School of Business, Stanford University)
- Professor Luke Georghiou (マンチェスター大学)
- 村上 憲郎氏 (グーグル株式会社 代表取締役社長)
- 稲葉 善治氏 (ファナック株式会社 代表取締役社長)
- 鶴 光太郎氏 (経済産業研究所 上席研究員)

■ 編集後記 ■

皆様のお陰様をもちまして、本暦年のニューズレター12号分を無事に発行することができました。センター員一同、心から御礼申し上げます。2007年はさらに教育・研究活動を加速・活性化し、先端拠点としての進化をタイムリーに発信してゆく所存でございます。どうぞ倍旧のご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

●● 発行 ●●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム
「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務室

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51
東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内 西9号館 208B号室
TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250
Email: nakane@me.titech.ac.jp URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>
編集者: 菊池 隆